

書類作成支援

本書では、EX-TREND 武蔵 書類作成支援の解説例として、よく使うひな形から作成、既存 Excel よりひな形作成、土木計算を行う流れを簡単なサンプルを用いて解説しています。

※解説内容がオプションプログラムの説明である場合があります。ご了承ください。



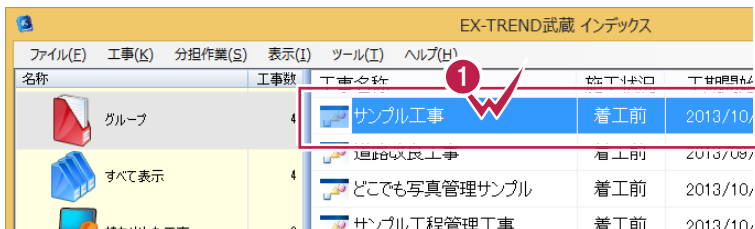
1. よく使うひな形から作成	1
1-1 工事を選択する	1
1-2 [書類作成支援]を起動して、よく使うひな形を開く	1
1-3 試験内容を入力する	2
1-4 ファイルを保存する	3
2. 既存のExcelよりひな形作成	4
2-1 工事を選択する	4
2-2 [書類作成支援]を起動して、既存のファイルを開く	4
2-3 工事情報を入力する	5
2-4 ファイルを保存する	6
2-5 ひな形ファイルとして登録する	6
3. 土木計算	8
3-1 工事を選択する	8
3-2 [書類作成支援]を起動して、書類を新規作成する	8
3-3 土量計算表を入力する	9

1 よく使うひな形から作成

よく使うひな形から土質帳票を作成してみましょう。

1-1 工事を選択する

EX-TREND武蔵 インデックスで、工事を選択します。

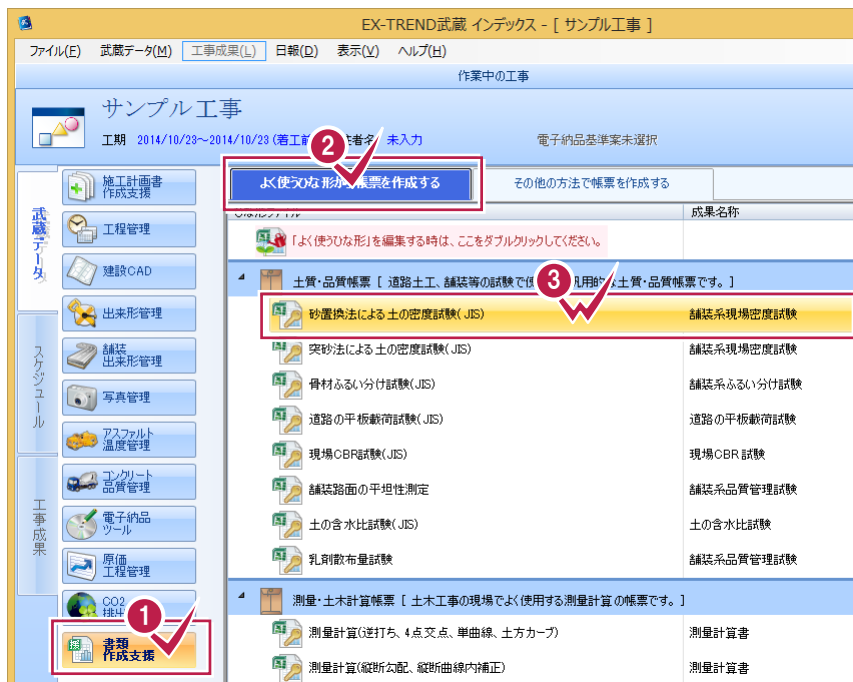


1 工事をダブルクリックします。

1-2 [書類作成支援]を起動して、よく使うひな形を開く

[書類作成支援]を起動して、よく使うひな形を開きます。

操作例では、土質・品質帳票の「砂置換法による土の密度試験 (JIS)」を開きます。



1 [書類作成支援]をクリックします。

2 [よく使うひな形から帳票を作成する]をクリックします。

3 [砂置換法による土の密度試験 (JIS)]をダブルクリックします。

1-3

試験内容を入力する

測定箇所	測定値	標準偏差
砂置換法の乾土密度	L 1.27	1366
砂置換法の含水率	W 31.6	31.6
含水率	L 3	3
含水率	W 233	233
含水率	W 3111	3200
含水率	W 2709	2709
含水率	W 2619	2194
含水率	W 2660	2660
含水率	W 6269	6269
含水率	W 3292	3292
含水率	W 1931	1931
含水率	W 1602	1602
含水率	W 1784	1784
含水率	W 1.966	1.966

1 2

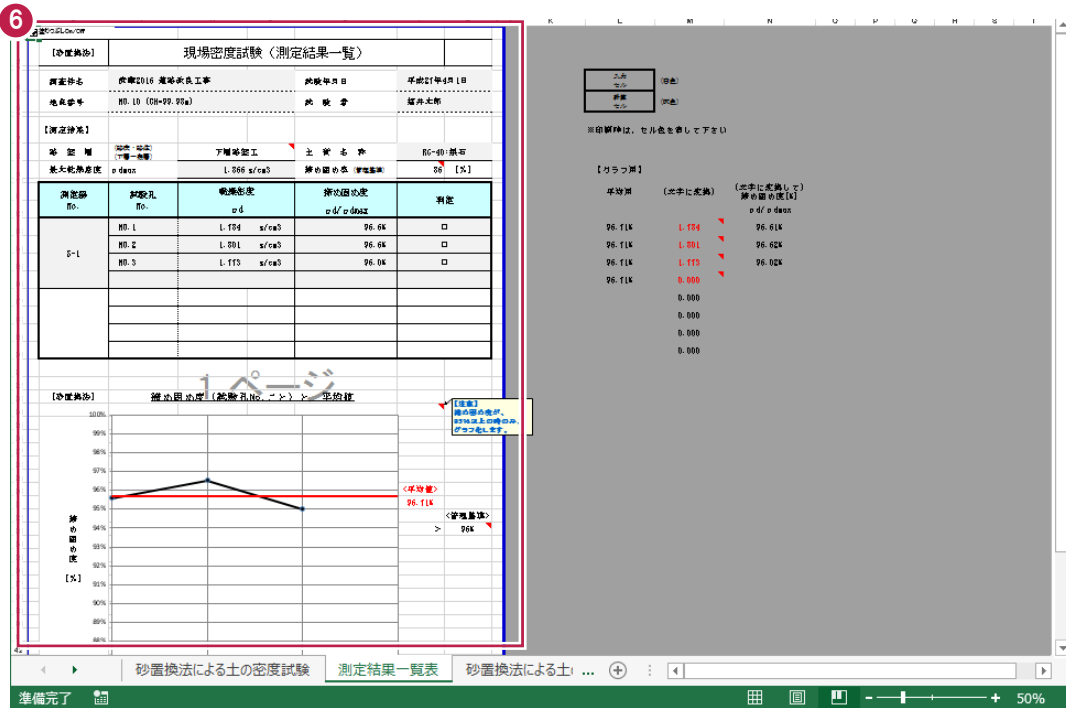
質量、含水比など、セルの背景色が白色の部分を入力していきます。

3 4

セルの背景色が灰色の部分に、自動で計算結果が表示されます。

測定箇所	測定値	標準偏差
砂置換法の乾土密度	L 1.27	1366
砂置換法の含水率	W 31.6	31.6
含水率	L 3	3
含水率	W 233	233
含水率	W 3111	3200
含水率	W 2709	2709
含水率	W 2619	2194
含水率	W 2660	2660
含水率	W 6269	6269
含水率	W 3292	3292
含水率	W 1931	1931
含水率	W 1602	1602
含水率	W 1784	1784
含水率	W 1.966	1.966

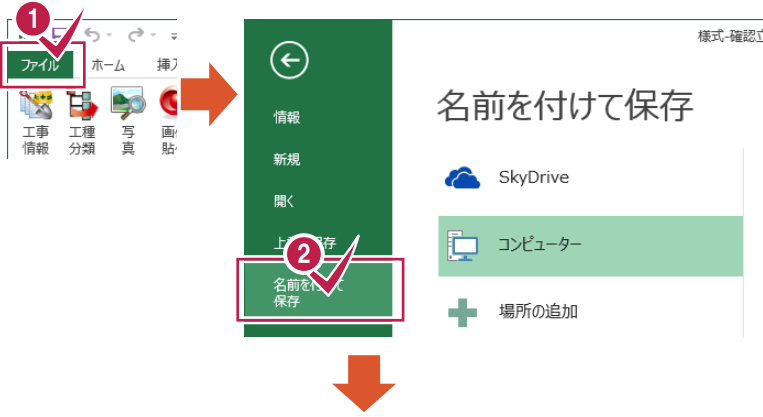
5 「測定結果一覧表」シートをクリックします。



6 測定結果一覧表が自動で作成されます。

1-4 ファイルを保存する

ファイルを保存します。操作例では、[名前を付けて保存]で「砂置換法による土の密度試験 (サンプル)」として保存します。



1 2 [ファイル] - [名前を付けて保存] をクリックします。



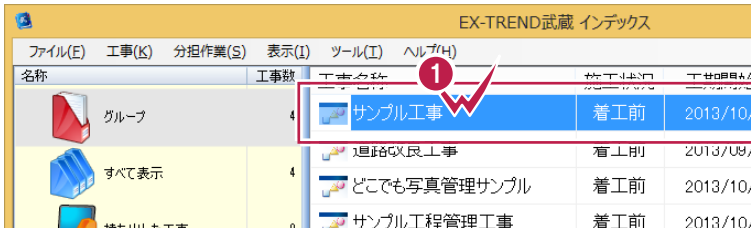
3 4 5 ファイルの保存場所を指定し、ファイル名を入力して、[保存]をクリックします。

2 既存のExcelよりひな形作成

既存のExcelよりひな形を作成してみましょう。

2-1 工事を選択する

EX-TREND武蔵 インデックスで、工事情報を入力する工事を選択します。

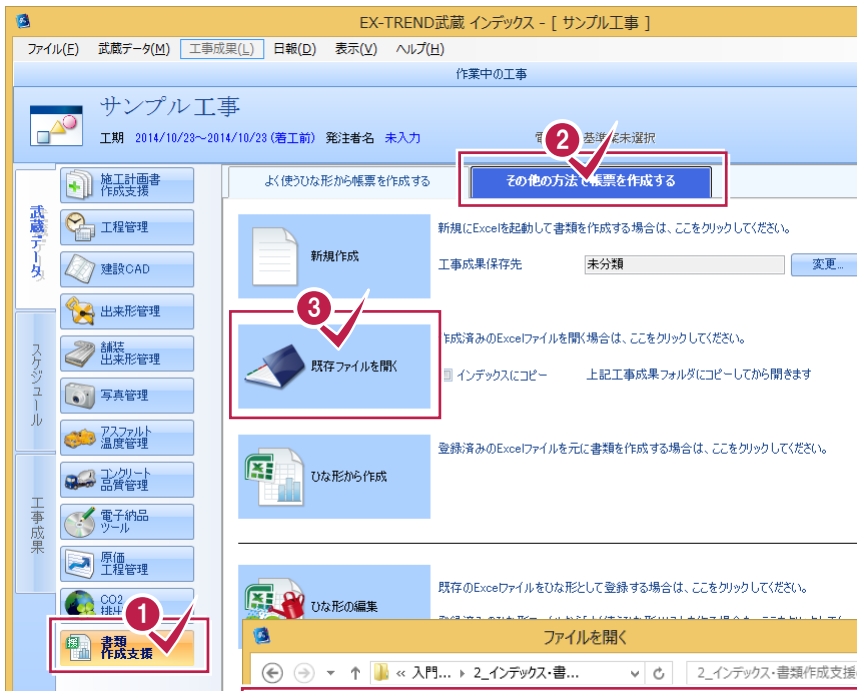


- 1 工事情報を入力する工事をダブルクリックします。

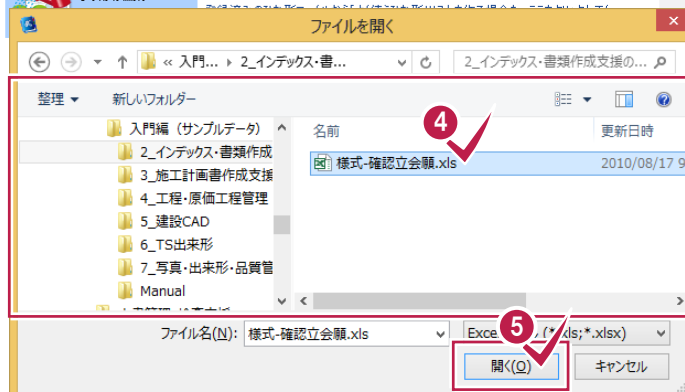
2-2 [書類作成支援]を起動して、既存のファイルを開く

[書類作成支援]を起動して、既存のExcelファイルを開きます。

操作例では、「各種資料(土木)¥武蔵¥入門編(サンプルデータ)¥2_インデックス・書類作成支援」フォルダーの中にある「様式-確認立会願.xls」を開きます。



- 1 [書類作成支援]をクリックします。
- 2 [その他の方法で帳票を作成する]をクリックします。
- 3 [既存ファイルを開く]をクリックします。
- 4 5 既存のファイルを選択して、[開く]をクリックします。



2-3 工事情報を入力する

工事情報を入力します。

1 2 3 4 5

[書類作成支援]タブをクリックして[工事情報]をクリックします。

工事名称を入力する場所をクリックし、[工事情報]の[工事名称]をクリックして、[貼付]をクリックします。



6 7 8

同様に③～⑤の操作を繰り返して、監督官を入力します。

2-4

ファイルを保存する

ファイルを保存します。操作例では、[名前を付けて保存]で「様式-確認立会願(サンプル)」として保存します。



1 2

[ファイル]－[名前を付けて保存]をクリックします。

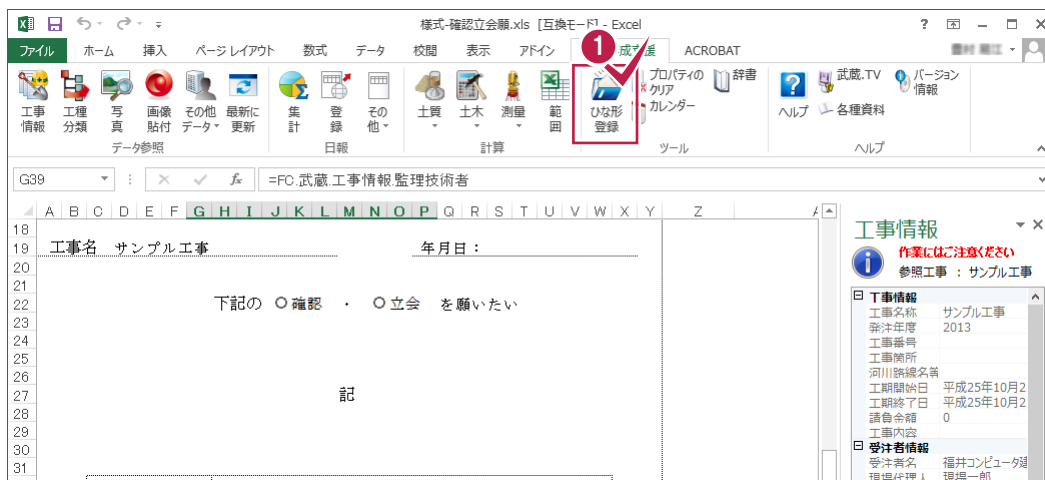
3 4 5

ファイルの保存場所を指定し、ファイル名を入力して、[保存]をクリックします。

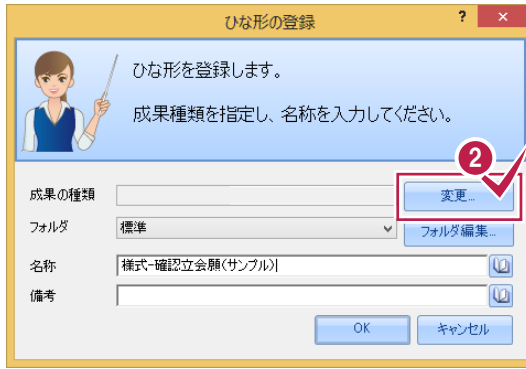
2-5

ひな形ファイルとして登録する

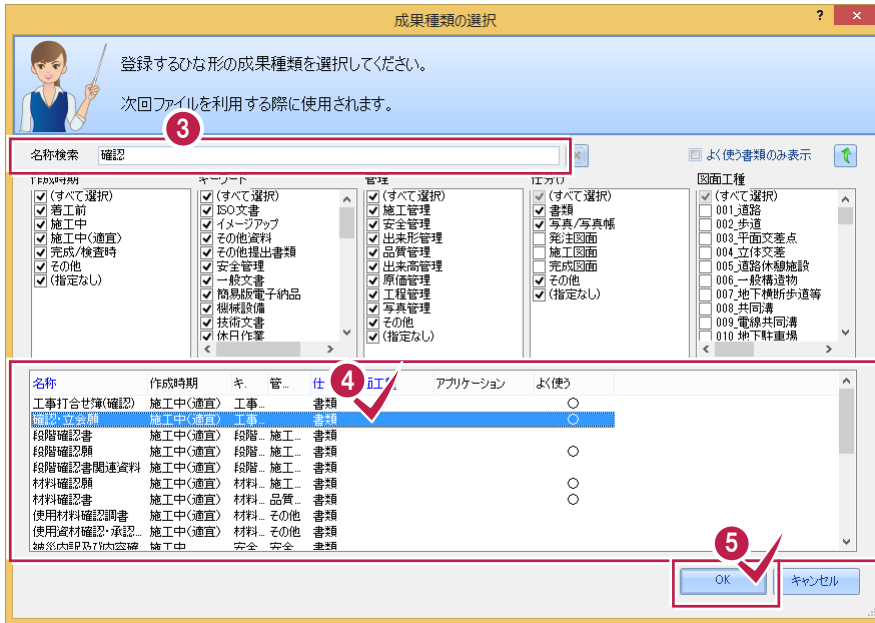
Excelファイルをひな形ファイルとして登録します。



1 [ひな形登録]をクリックします。

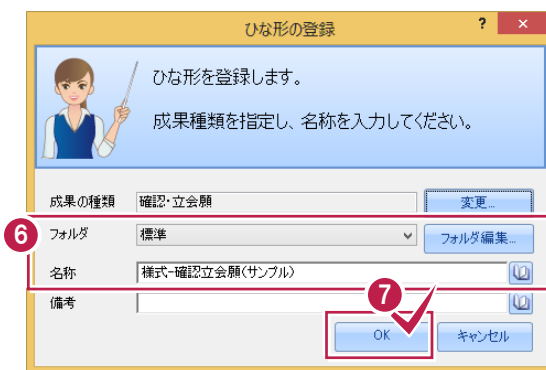


2 [成果の種類]の[変更]をクリックします。

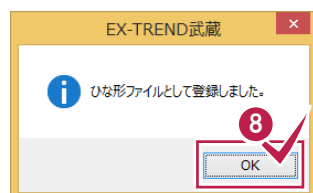


3 操作例では名称で検索するので、[名称検索]に「確認」と入力します。

4 5 「確認・立会願」をクリックして、[OK]をクリックします。



6 7 ひな形ファイルを登録するフォルダーを指定し、ファイル名を入力して、[OK]をクリックします。



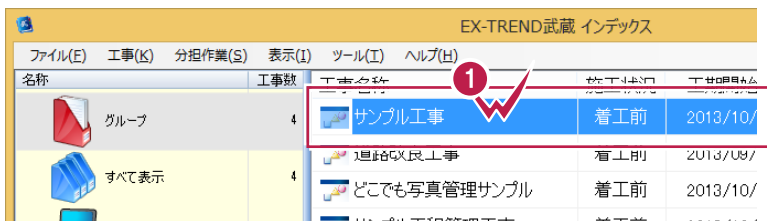
8 [OK]をクリックします。

3 土木計算

書類作成時のExcelの[書類作成支援]タブには、数多くの土木計算コマンドがあります。操作例では、[土量換算]を使用して、土量計算表を入力してみましょう。

3-1 工事を選択する

EX-TREND武蔵 インデックスで、工事を選択します。



1 工事をダブルクリックします。

3-2 [書類作成支援]を起動して、書類を新規作成する

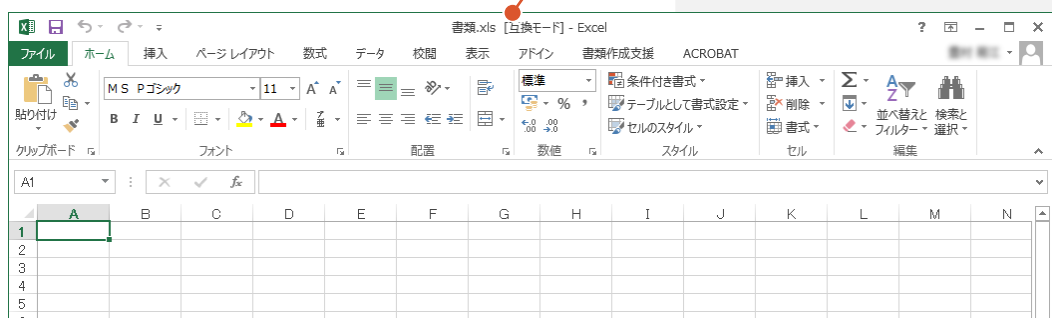
[書類作成支援]を起動して、書類を新規作成します。



1 [書類作成支援]をクリックします。

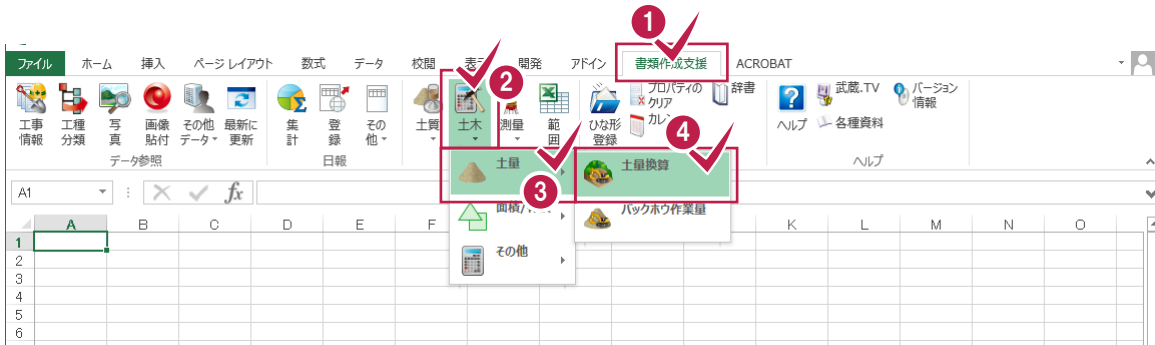
2 [その他の方法で帳票を作成する]をクリックします。

3 [新規作成]をクリックします。



3-3

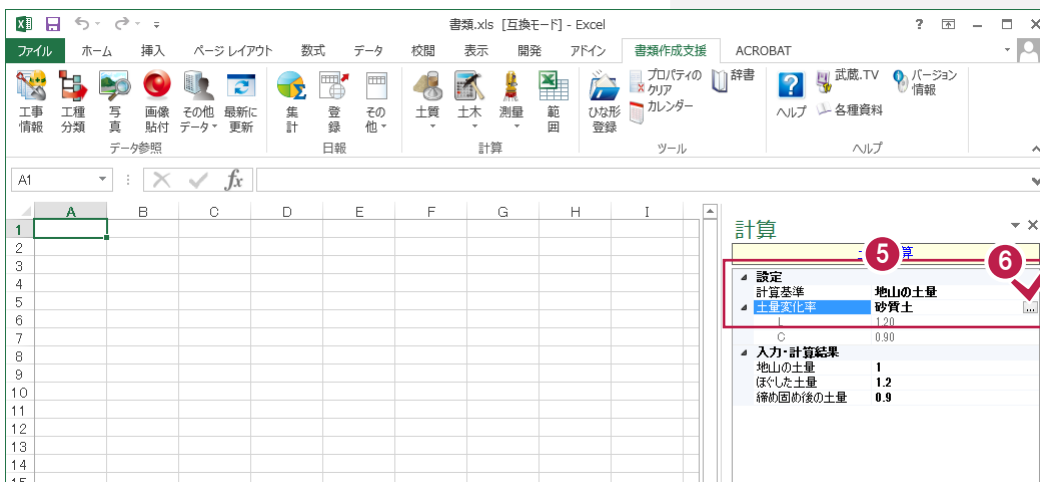
土量計算表を入力する



1 2 3 4

[書類作成支援]タブをクリックします。

[土木]－[土量]－[土量換算]をクリックします。

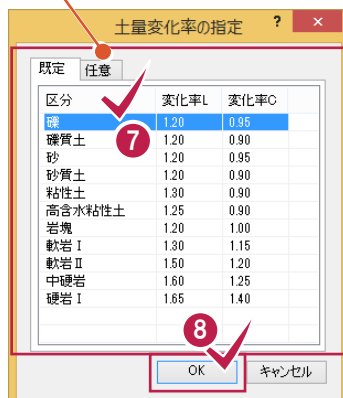


5 6

[計算基準]で土量わかっている土の状態を選択します。

[土量変化率]をクリックして、右側に表示されるアイコンをクリックします。

[任意]タブで、変化率を設定することもできます。



7 8

土量変化率を選択して[OK]をクリックします。

3. 土木計算

操作例では[計算基準]で「締め固め後の土量」を選択しているため、[締め固め後の土量]を入力すると、[地山の土量][ほぐした土量]が自動計算されます。

9 [締め固め後の土量]に対象土の土量を入力します。

10 11

貼り付ける場所をクリックして、[列貼付]をクリックします。

表が貼り付けられます。
必要に応じて、調整してください。